

## NGU 教養スタンダード

### NGU 教養スタンダード

本学のカリキュラムの特色のひとつとして、どの学部の学生でも学べる「NGU 教養スタンダード科目」を開設しています。「NGU 教養スタンダード科目」は、現代社会で生きていくために必要な知識と技術をしっかり身につけ、専門知識だけに偏らない豊かな人間性を育てるために、次のような3つの目標を掲げて、カリキュラムを編成しています。

- キリスト教主義にもとづいた豊かな人格の形成
- 社会生活に必要な知識や技術の修得
- 成熟した市民として必要な教養の養成

### NGU 教養スタンダード科目の構成

#### キリスト教に関する科目

「キリスト教」に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説1」「キリスト教概説2」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

#### 自己理解と自己開発に関する科目

1年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」について理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン1a～2b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

#### 情報に関する科目

高度情報化社会の要請に応えるため、数理・データサイエンス・AI教育の充実が、本学の情報教育の特色です。1年次の「情報処理リテラシー（必修科目）」では、ノートパソコンを使って情報処理の基礎知識と基本スキルを学修します。また、「データサイエンスリテラシー」「データサイエンス概論」「AI概論」「情報処理論」などでは、数理・データサイエンス・AIの基礎知識と様々な応用法、並びに近年のデータサイエンス分野の動向などを学修します。

#### 言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」を必修として学ぶほか、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」を学ぶことができます（学部によっては履修できない外国語もあります）。また、「日本語表現」を必修として学び、日本語表現法関連科目を学修することができます。

#### 社会的教養に関する科目

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには、一般教養の修得が欠かせません。本学では、〈歴史・文化〉、〈社会〉、〈自然・人間・生命〉、〈地域〉の4区分の学修を通じて、適切な教養の修得を目指します。

#### 教職に関する科目

ここに配置されている科目は教員免許取得をめざして教職課程に加入している者だけが受講できる科目です。実際に教員免許を取得するためには、教職課程履修規程にもとづき、この領域の科目に加えて、その他の指定された科目を履修する必要があります。

## 地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）

### 大学 COC 事業に関する 4 年間の学修

文部科学省は「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」を通じて、全学的に地域と連携した教育・研究・社会貢献に取り組む大学を支援しています。2013 年 8 月、名古屋学院大学は同事業に採択され、学生のみなさんが地域のことに興味関心を抱き、学修意欲を高められるカリキュラムを充実させました。これにより、企業が必要とする「社会人基礎力」が高まり、4 年後の就職にも有利となることをめざしています。

※ COC は「Center of Community」の略で、「地域再生の核となる大学」という意味です。

学生のみなさんは、下図に示すカリキュラムにより、行政や地域（住民・企業・団体）とも連携・協力しながら学修を進めていきます。これらの授業においては、教室内の学修はもちろんですが、学外でのイベントやフィールドワークに参加する場合があります。

#### COC に関するカリキュラムの流れ

カリキュラム	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
① 教育イベント「まちづくり提言コンペ」	→			
② 課題解決型授業（PBL）	→			
③ 地域志向型科目（各学部専門科目）	→			
④ 教育イベント「地域フォーラム」			→	

- ① 全学生が参加する**1 年生の教育イベント**として、「基礎セミナー」において、名古屋市熱田区または瀬戸市にかかわる「まちづくり提言コンペ」を実施します。
- ② **課題解決型学習（PBL）**として、全学共通の《NGU 教養スタンダード科目》において、地域商業・減災福祉に関する「まちづくり学」「まちづくり演習」を開講するとともに、希望者は「上級まちづくり演習」（減災福祉のみ）で継続受講することも可能です。
- ③ 各学部の専門科目において、地域を学修対象とした**地域志向型科目**を開講しています。
- ④ 全学生が参加する**3・4 年の教育イベント**として、「演習」での課題研究の成果などを地域の方向けに発表する「**地域フォーラム**」を実施します。専門科目としての演習科目やゼミなどで学修・研究した成果を広く地域へ発信します。

#### 初級まちづくりマイスター

まちづくり分野（地域商業・減災福祉）で開講している「まちづくり学」「まちづくり演習」科目の両方を履修し単位修得した学生に対し、「初級まちづくりマイスター」を認定します。

#### 上級まちづくりマイスター

初級まちづくりマイスターを認定された者のうち、「上級まちづくり演習」を履修し単位修得すること、かつ公的な社会的活動に従事したり公的資格の取得をした学生を対象に、「上級まちづくりマイスター」を認定します。

## スポーツ健康学部 スポーツ健康学科

### 教育目標（学則第3条の2より）

スポーツ健康学科は、幼児から高齢者までを対象とした、スポーツを通しての健康づくりと体力の維持・増進について学び、実践できる人材の養成を教育目標とする。

### ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

スポーツ健康学部 に所属する学生は、卒業後に多様な職域において生涯スポーツやスポーツ健康教育などのスポーツの切り口で健康維持・増進、疫病予防などを推進することが期待されます。学部・学科のカリキュラムを履修、学修することをおして、以下の能力が獲得できます。これに併せて、卒業に必要なとされる所定の単位と要件を満たした学生には学士（スポーツ健康）の学位が授与されます。

#### 知識・技能

- 1) スポーツ・健康に関する基本的知識を理解し、健康・体力の維持向上に対するスポーツ・身体運動の効果を説明することができる。
- 2) 学校、企業、地域などにおけるスポーツ振興や健康増進活動を理解し、その概要と課題を説明できる。
- 3) 主要な運動種目の技能、および指導の基本を実践できる。

#### 思考力・判断力・表現力

- 1) 情報を整理し、その結果をまとめるとともに、それらに関するプレゼンテーションをおこなうことができる。
- 2) 社会におけるスポーツや健康に関する課題の実態を把握し、その関連要因、課題解決方法あるいは改善策を提示することができる。
- 3) スポーツや健康に関する教育・指導に関して、実施の対象や諸条件に合わせて適宜企画し、実践の場面で臨機応変に対応することができる。

#### 主体性・多様性・協働性

- 1) スポーツや健康に関する情報を積極的かつ広範に求める態度を身につけている。
- 2) 課題解決に対して常に積極的に周囲と協力して取り組む態度を身につけている。
- 3) 教育・指導の場面においては参加者（受講者など）の立場を考慮することができる。

### カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

ディプロマ・ポリシーの能力の獲得を目的として、スポーツ健康学科では、《NGU 教養スタンダード科目》、および《導入科目》、《スポーツ・健康科目》、《体育・スポーツ教育科目》、《実技科目》、《演習科目》から成る《専門科目》によってカリキュラムが構成されています。カリキュラムの特徴は以下のとおりです。

#### 教育内容

- 1) 全学生を対象とした《NGU 教養スタンダード科目》では、キリスト教主義に基づいた豊かな人格の形成、社会生活に必

要な知識や技術の修得、成熟した市民としての教養の獲得を目標としています。

- 2) ≪専門科目≫のうち≪導入科目≫は、スポーツ健康科学に関する基礎的広範な概論科目です。
- 3) ≪専門科目≫のうち≪スポーツ健康科目≫においては、<スポーツ・健康の基礎>、<スポーツ・健康の方法>、<社会におけるスポーツ・健康>、<実践科目>そして<関連科目>を配置しています。
  - <スポーツ・健康の基礎>はスポーツ健康の基礎についての深い理解と修得をねらいとしています。
  - <スポーツ・健康の方法>はスポーツ健康の基礎を発展して応用するための専門的知識の修得をねらいとしています。
  - <社会におけるスポーツ・健康>は、スポーツ健康と社会のつながりや社会における役割などに関する基本的知識の修得をねらいとしています。
  - <実践科目>は、実習や演習をとおして実践することにより、講義で学んだ基礎的知識や応用の方法を、確実に修得することをねらいとしています。
  - <関連科目>は、就職活動に備えた、キャリア教育をねらいとしています。

## 教育方法

- 1) 授業において ICT ツールを積極的に活用し、知的興味・関心を醸成します。
- 2) 講義科目においては、小テストやレポートを通して学生の学習状況や理解度の把握に努めます。
- 3) 演習科目（スポーツ健康基礎演習、スポーツ健康発展演習、研究演習、卒業研究）においては、担当教員が学生相互の議論を誘導し、集団討議や成果発表をおこないます。
- 4) 実習科目（スポーツマネジメント演習、健康レクリエーション実習、自然遊びプロデュース演習、学校体育指導演習、スポーツ健康科学演習）においては、本学及び地域の教育施設などにおいて、測定や実践を通して学内で習得した知識や技能を更に確かなものにすることや、児童生徒、社会人、更に中高齢者などのライフステージに応じた健康増進活動への関与もねらいとしています。

## 学修成果の評価

- 1) 各科目の評価は、原則として平常点および定期試験などによる総合評価（100点満点）によりおこなわれます。
- 2) 思考力・判断力・表現力や主体性・多様性・協働性については、それぞれの授業科目において必要に応じて達成度指標を設けて段階的に評価したうえで総合評価に加えます。
- 3) 学修の成果として GPA の他、卒業論文やルーブリック、ポートフォリオなどで達成度を評価します。

## アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

スポーツ健康学科では、スポーツの実践力の向上や、スポーツを切り口とした健康増進に対する意欲はもとより、スポーツ科学や健康科学に関する広範な知見を学び、スポーツや体育の指導者に必要な知識、技術および能力を修得することについて強い関心を持つ学生を優先して迎え入れています。具体的には卒業後の進路として、中学校や高等学校の保健体育教諭、スポーツクラブなどの指導者、その他の職域あるいは地域において積極的にスポーツ活動の振興や健康行動獲得の推進に貢献する人物像を想定しています。

## カリキュラムの概要

≪導入科目≫においては、「スポーツ健康科学概論 A, B」を配置し、スポーツ健康科学に関する基礎的広範な講義形式の概論科目で、様々な専門科目を学ぶ準備として基礎的知識を修得します。

≪スポーツ・健康科目≫の<スポーツ・健康の基礎>においては、「からだのつくり・はたらき」、「スポーツ生理学」、「ス

ポーツ医学」など、スポーツ健康に関する医学、自然科学的基礎について学び、〈スポーツ・健康の方法〉の学習に備えます。

〈スポーツ・健康科目〉の〈スポーツ・健康の方法〉においては、「スポーツ指導論」、「コーチング学」、「スポーツ健康トレーニング論1,2」など、スポーツ健康の基礎的知識を応用するための専門的知識を修得します。

〈スポーツ・健康科目〉の〈社会におけるスポーツ・健康〉においては、「地域・生涯スポーツ論」、「スポーツ社会学」、「スポーツ倫理学」など、スポーツ健康と社会のつながりや社会における役割などに関する基本的知識の修得をねらいとしています。

〈スポーツ・健康科目〉の〈実践科目〉においては、「スポーツマネジメント演習」、「健康レクリエーション実習」、「自然遊びプロデュース演習」など実習や演習をとおして実践することにより、講義で学んだ基礎的知識や応用の方法を、確実に修得することをねらいとしています。

〈体育・スポーツ教育科目〉においては、「発育発達とスポーツ」、「スポーツ教育論」など、学校体育やスポーツ指導の現場で必要になる基本的知識に関する科目が配置されています。

〈実技科目〉においては、〈体育・スポーツ系〉と〈運動・レクリエーション系〉の領域に分け、それぞれ11種目と10種目の実技科目を配置しています。

〈演習科目〉においては、「スポーツ健康基礎演習」（1年次秋）、「スポーツ健康発展演習」（2年次春）、「スポーツ健康科学演習」（2年次秋）、「研究演習」（3年次）および「卒業研究」（4年次）を配置しています。これらに加えて1年次に〈NGU教養スタンダード科目〉として開設される「基礎セミナー」を連携させて、4年間をとおしての一貫した演習指導体制を準備しています。

## カリキュラム上の特色

学部開設の多くの科目が選択科目で、必要に応じて履修できる体制となっています。必修は〈導入科目〉の2科目、〈スポーツ・健康科目〉のうちの〈スポーツ・健康の基礎〉の「スポーツ原理」、「からだのつくり・はたらき」です。

選択科目をどのように選ぶかについては、自分の興味関心と将来の職域（資格取得を含めて）を考慮する必要があります。履修モデルを参考に、適切な科目を選択してください。

本学科において、保健体育（中高）の教員免許を取得することを目的とした場合には、教職必修科目を確実に選択することが必要です。履修モデルを参考にしうえて、詳細は「教職課程ハンドブック」を確認してください。なお、教員免許は取得することが主目的ではなく、教職に就くことが最終目的ですので、関連する科目を積極的に履修することが大切です。

また、日本スポーツ協会、健康・体力づくり事業財団などが認定する資格の取得を希望する場合は、それらに必要な科目を修得する必要があります。このことも履修モデルを参考に、適切な科目を選択してください。

## 演習科目

### 演習科目とは

スポーツ健康学科では、1年次に「基礎セミナー」および「スポーツ健康基礎演習」、2年次に「スポーツ健康発展演習」および「スポーツ健康科学演習」、3年次に「研究演習」さらに4年次に「卒業研究」を配置することにより、4年間一貫した少人数でのゼミナール形式の演習をおこないます。

みなさんは、学修のそれぞれの段階で、指導教員のもと、自らの関心を広げ、課題を発見し、研究や討論を通じて問題を解決しながら、能力の向上に努めてください。

また、4年間一貫のゼミナール教育で、積極的な人間的交流をはかることにより、幅広い友人関係を育み、指導教員を含めた有機的なコミュニケーションのパイプを築いてください。

ゼミナールは4年間の大学生活の中核であり、学修、研究、指導教員やゼミ生間の交流をとおして大学での学修の集大成となり、将来の人生への基盤となるものです。

### 基礎セミナーおよびスポーツ健康基礎演習

1年次配当の「基礎セミナー」および「**スポーツ健康基礎演習**」は、導入および基礎教育をフォローするための科目です。2・3年次においての専門的な研究に取り組むための基礎を築きます。

- ① スポーツや健康に関する文章を読み、その内容を要約、紹介する。
- ② スポーツや健康に関する問題を提起し、討論する。
- ③ スポーツや健康に関する情報を収集し、紹介する。
- ④ 図書検索や、インターネットを利用した検索を学修する。

①から④の方法をとおして、健康に関する知識を高めながら、読解力の育成や文章を要約しまとめる能力の向上をはかります。

### スポーツ健康発展演習

2年次春学期配当の「**スポーツ健康発展演習**」では、興味のあるスポーツや健康に関するテーマを基本に、指導教員のもとで、より専門的な学修をおこないます。

- ① スポーツや健康に関する図書や文献を読み、その内容について紹介、討論をおこなう。
- ② スポーツや健康に関する英語の文章を読み、報告、討論をおこなう。
- ③ スポーツや健康に関するテーマの中で、関心のある事象を調べ、報告する。
- ④ レポート作成やプレゼンテーションの基礎を学ぶ。

### スポーツ健康科学演習

2年次秋学期配当の「**スポーツ健康科学演習**」では、一学年を7つのグループに分け、以下のような、7つのスポーツ健康科学分野の課題に関する測定、分析、レポート作成を2週毎にローテーションでおこないます。

- ① 新体力テスト測定・分析
- ② トレーニング機器を用いた測定・分析
- ③ 筋電図法を用いた測定・分析
- ④ 動作測定・分析
- ⑤ ゲーム分析
- ⑥ スポーツ医学測定・分析
- ⑦ 呼気ガス測定・分析

### 研究演習

3年次配当の「研究演習」では、スポーツや健康に関する多くの課題の中から、卒業研究テーマを模索しながら自らの関心を絞り込み、情報収集、資料収集を通じて卒業研究テーマの基礎を学修します。

- ① 国内および海外で刊行された専門の文献や著書を読み、その論点の要旨を理解する。
- ② 専門の文献や著書の読解をとおして、その論点を理解し、問題点を探る。
- ③ 関心のある事象の問題点を整理し、その解決方法を探る。
- ④ 関心のあるテーマを絞り、研究課題を策定、プレゼンテーションをおこなう。
- ⑤ プレゼンテーションおよびその討論を基礎にして研究報告書（4,000字以上）の作成をおこなう。

卒業研究をおこなうための基本的研究への取り組み姿勢を養いながら、研究の方法論を身につけてください。

なお、「研究演習」の登録は前年度の秋学期から開始され、選考がおこなわれます。自分の希望する教員のゼミでどのようなことがおこなわれているかを演習概要で確認してください。そして、オフィスアワーを利用するなどしてその教員を訪ね、面談の上で決定すると良いでしょう。

## 卒業研究

「卒業研究」は、「研究演習」の指導教員のもとで作成した「研究報告書」をもとに、専門的研究の集大成として、研究成果を卒業論文（10,000字以上）にまとめます。

### 演習科目の履修にあたって

以下の場合には「研究演習」の履修ができませんので、注意してください。また、原則として、「研究演習」を修得していない者は、「卒業研究」を履修できません。

- 1) 2年次の終了時点で総修得単位数が48単位に満たない者
- 2) 「基礎セミナー」および「スポーツ健康基礎演習」を修得していない者

### スポーツ健康学科で取得できる資格

スポーツ健康学部のカリキュラムにある特定の科目を履修し単位を修得することにより、以下の資格を取得または受験資格を取得することができます。履修の詳細については、ガイダンスなどで説明します。積極的に参加し、情報を収集してください。

なお資格取得については、資格課程登録料のほかに実習費、宿泊費、保険料、資格試験料などを徴収する場合があります。

資格種類	認定団体	資格課程登録料など
スポーツコーチングリーダー	日本スポーツ協会	2年次春学期の資格課程登録の際に、登録料の詳細をお知らせします。
アシスタントマネージャー（受験資格）	//	
ジュニアスポーツ指導員（受験資格）	//	
レクリエーションインストラクター	日本レクリエーション協会	
健康運動実践指導者（受験資格）	健康・体づくり事業財団	
健康管理士一般指導員（受験資格）	日本成人病予防協会	

### スポーツコーチングリーダー

スポーツコーチングリーダーとは、地域におけるスポーツグループやサークルなどのリーダーとして、スポーツ指導にあたる人のための基礎的資格です。取得後は、地域におけるスポーツグループやサークルなどのリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営にあたるとともに、競技別指導者資格やフィットネス資格へステップアップすることも可能です。

### スポーツプログラマー

スポーツプログラマーとは、おもに青年期以降のすべての人に対し、地域スポーツクラブなどにおいて、フィットネスの維持や向上のための指導・助言をおこなう人のための資格です。

### アシスタントマネージャー

アシスタントマネージャーとは、総合型地域スポーツクラブにおいて、クラブ員が充実したクラブライフを送ることができるよう、クラブマネージャーを補佐し、クラブ経営のための諸活動をサポートする人のための資格です。

## ジュニアスポーツ指導員

ジュニアスポーツ指導員とは、地域スポーツクラブなどにおいて、幼・少年期の子どもたちに遊びをとおした身体づくり、動きづくりの指導をおこなう人のための資格です。

## レクリエーションインストラクター

レクリエーションインストラクターとは、集団を対象としてプログラムや活動を展開し、集団のコミュニケーションの促進やその中にいる個々人の主体性や協調性を引き出せる人、あるいは、地域社会の課題に目を向けてレクリエーションを活用した活動を展開できる人のための資格です。

## 健康運動実践指導者

健康運動実践指導者とは、「積極的な健康づくりを目的とした運動を、安全かつ効果的に実践指導できる能力を有すると認められる者」に与えられる資格のひとつで、医学的基礎知識、運動生理学の知識、健康づくりのための運動指導の知識・技術などを有することが必要です。そして、健康づくりを目的として作成された運動プログラムにもとづいて、「自ら見本を示せる実技能力と、特に集団に対する運動指導技術に長けた者」となることが要求されます。

## 健康管理士一般指導員

健康管理士一般指導員とは、健康管理や予防医学全般にわたって幅広く学習し、生活習慣病の原因・発生机序からそれを予防するための栄養・運動・メンタルヘルスについて「身体と心」の両面から総合的な健康管理の指導やアドバイスをおこなう専門家です。

その他、アスレティックトレーナー、各種競技のスポーツコーチ、スポーツ栄養士など、日本スポーツ協会が認定する資格の受験資格を得るために必要な共通科目Ⅲも、単位取得により協会での受講が免除されます。共通科目Ⅲに該当する科目は、ガイダンスで説明します。







## 卒業要件

### 卒業要件単位数

スポーツ健康学部の授業科目表（次頁以降参照）にもとづいて必要な単位数（124 単位）以上を修得しなければなりません。それぞれの単位数には必修科目を含みます。区分ごとの要件をよく確認し、4 年間の履修計画をしっかりと立ててください。

NGU教養 スタンダード 科目	キリスト教		34単位以上 (必修16単位を 含む)	
	自己理解と自己開発			
	数理・データサイエンス・AI教育			
	言語とコミュニケーション			
	歴史・文化の理解			
	社会の理解			
	自然・人間・生命の理解			
	地域の理解			
	教職 ※1			
専門科目	導入科目		4単位	
	スポーツ・ 健康科目	スポーツ・健康の基礎	50単位 以上 (必修4単位を 含む)	合計62単位以上
		スポーツ・健康の方法		
		社会におけるスポーツ・健康		
		実践科目		
		関連科目		
	体育・スポーツ教育科目			
	実技科目	体育・スポーツ系	4単位以上	
運動・レクリエーション系		4単位以上		
演習科目		14単位		
自由選択（フリーゾーン） ※2			10単位以上	
卒業要件単位数合計			124単位以上	

[注記]

- ※1 教職課程加入者のみ履修可。8単位までをNGU教養スタンダード科目の卒業要件単位数とすることができる。
- ※2 科目区分を問わず、自由に選択できる。

スポーツ健康学科 NGU教養スタンダード科目

授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング
	必修	選択		
<b>キリスト教</b>				
キリスト教概説1	2		1	AC1101
キリスト教概説2	2		1	AC1102
聖書学		2	2	AC2301
キリスト教倫理		2	2	AC2302
キリスト教史		2	1	AC1301
<b>自己理解と自己開発</b>				
基礎セミナー	2		1	AU1101
キャリアデザイン1a	2		1	AU1102
キャリアデザイン1b		2	1	AU1301
キャリアデザイン2a		2	2	AU2301
キャリアデザイン2b		2	2	AU2302
ボランティア学		2	1	AU1302
ボランティア演習		2	1	AU1303
インターンシップ1		2	1	AU1304
インターンシップ2		2	1	AU1305
<b>数理・データサイエンス・AI教育</b>				
情報処理リテラシー	2		1	AI1101
データサイエンスリテラシー		2	1	AI1301
データサイエンス概論		2	2	AI2301
AI概論		2	2	AI2302
情報処理論		2	2	AI2303
<b>言語とコミュニケーション</b>				
日本語表現	2		1	AV1101
実用日本語表現法		2	1	AV1301
アカデミック日本語表現法		2	2	AV2301
基礎英語1	1		1	AV1102
基礎英語2	1		1	AV1103
英会話1	1		1	AV1104
英会話2	1		1	AV1105
実用英語1		1	2	AV2302
実用英語2		1	2	AV2303
情報英語1		1	2	AV2304
情報英語2		1	2	AV2305
<b>歴史・文化の理解</b>				
【教養】日本史		2	1	AW1301
【教養】世界史		2	1	AW1302
【教養】日本文学		2	1	AW1303
【教養】外国文化論		2	1	AW1304
【教養】文化人類学		2	1	AW1305
【教養】陶芸論		2	1	AW1306
【教養】陶芸演習		2	1	AW1307

授業科目	単位数		配当年次	ナンバリング
	必修	選択		
<b>社会の理解</b>				
【教養】政治学		2	1	AO1301
【教養】国際政治学		2	1	AO1302
【教養】国際関係論		2	1	AO1303
【教養】平和学		2	1	AO1304
【教養】法学		2	1	AO1305
【教養】日本国憲法		2	1	AO1306
【教養】経済学		2	1	AO1307
【教養】経営学		2	1	AO1308
【教養】統計学		2	1	AO1309
【教養】社会学		2	1	AO1310
【教養】教育学		2	1	AO1311
<b>自然・人間・生命の理解</b>				
【教養】哲学		2	1	AN1301
【教養】心理学		2	1	AN1302
【教養】数学		2	1	AN1303
【教養】物理学		2	1	AN1304
【教養】化学		2	1	AN1305
【教養】地学		2	1	AN1306
【教養】生物学		2	1	AN1307
【教養】環境学		2	1	AN1308
【教養】スポーツ初級a		1	1	AN1309
【教養】スポーツ初級b		1	1	AN1310
<b>地域の理解</b>				
まちづくり学		2	1	AR1301
まちづくり演習		2	1	AR1302
上級まちづくり演習		2	2	AR2301
<b>教職</b>				
教職論		2	1	AQ1301
教育原理		2	1	AQ1302
教育心理学概論1		2	1	AQ1303
教育心理学概論2		2	1	AQ1304
教育制度論		2	1	AQ1305
特別活動論		2	2	AQ2301
教育とICT活用		2	2	AQ2302
道徳教育論		2	2	AQ2303
生徒・進路指導論		2	2	AQ2304
教育相談		2	2	AQ2305

スポーツ健康学科 専門科目

授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング
	必修	選択		
スポーツ健康科学概論A	2		1	SH1101
スポーツ健康科学概論B	2		1	SH1102
<b>スポーツ・健康の基礎</b>				
スポーツ原理	2		1	SH1103
からだのつくり・はたらき	2		1	SH1104
スポーツ生理学		2	1	SH1301
医学一般		2	1	SH1302
スポーツ心理学		2	2	SH2301
バイオメカニクス		2	2	SH2302
測定評価(保健統計含む)		2	2	SH2303
健康心理学		2	2	SH2304
生涯発達心理学		2	2	SH2305
スポーツ栄養学		2	2	SH2306
スポーツ医学		2	2	SH2307
こどもと健康		2	2	SH2308
スポーツ薬理学		2	3	SH3301
<b>スポーツ・健康の方法</b>				
スポーツ指導論		2	2	SH2309
コーチング学		2	2	SH2310
スポーツ健康トレーニング論1		2	2	SH2311
健康管理論		2	2	SH2312
健康運動教育論		2	2	SH2313
スポーツ健康トレーニング論2		2	3	SH3302
スポーツコンディショニング論		2	3	SH3303
スポーツ戦略戦術論		2	3	SH3304
スポーツ方法論1(ラグビー)		2	3	SH3305
スポーツ方法論2(野球)		2	3	SH3306
健康とセルフメディケーション		2	3	SH3307
健康レクリエーション論		2	3	SH3308
高齢者運動スポーツ論		2	3	SH3309
<b>社会におけるスポーツ・健康</b>				
地域・生涯スポーツ論		2	2	SH2314
スポーツ社会学		2	2	SH2315
スポーツ史		2	2	SH2316
衛生学・公衆衛生学		2	2	SH2317
スポーツ経営論		2	3	SH3310
スポーツ政策論		2	3	SH3311
スポーツ倫理学		2	3	SH3312
<b>実践科目</b>				
救急処置の理論と実習		2	2	SH2318
スポーツマネジメント演習		2	3	SH3313
健康レクリエーション実習		2	3	SH3314
自然遊びプロデュース演習		2	3	SH3315
学校体育指導演習		2	3	SH3316
<b>関連科目</b>				
キャリア実務		2	3	SH3317

スポーツ・健康科目

授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング
	必修	選択		
スポーツ教育論		2	1	SH1303
発育発達とスポーツ		2	2	SH2319
こども体育		2	2	SH2320
こどもの運動遊び		2	3	SH3318
学校保健Ⅰ(小児保健・精神保健含む)		2	3	SH3319
学校保健Ⅱ(学校安全・救急処置含む)		2	3	SH3320
<b>体育・スポーツ系</b>				
スポーツ実技1(器械運動)		1	1	SH1304
スポーツ実技2(陸上)		1	1	SH1305
スポーツ実技3(水泳)		1	1	SH1306
スポーツ実技4(サッカー)		1	1	SH1307
スポーツ実技5(バスケットボール)		1	1	SH1308
スポーツ実技6(テニス)		1	1	SH1309
スポーツ実技7(バレーボール)		1	2	SH2321
スポーツ実技8(ソフトボール)		1	2	SH2322
スポーツ実技9(柔道)		1	3	SH3321
スポーツ実技10(ハンドボール)		1	3	SH3322
スポーツ実技11(ラグビー)		1	3	SH3323
<b>運動・レクリエーション系</b>				
スポーツ実技A(体づくり運動)		1	1	SH1310
スポーツ実技B(スキー)		1	1	SH1311
スポーツ実技C(ダンス)		1	2	SH2323
スポーツ実技D(アクアビクス)		1	2	SH2324
スポーツ実技E(ウォーキング)		1	2	SH2325
スポーツ実技F(エアロビクスダンス)		1	2	SH2326
スポーツ実技G(レクリエーション・ニュースポーツ)		1	2	SH2327
スポーツ実技H(アウトドア)		1	2	SH2328
スポーツ実技I(コンディショニング)		1	3	SH3324
スポーツ実技J(アダプテッドスポーツ)		1	3	SH3325
<b>演習科目</b>				
スポーツ健康基礎演習	2		1	SH1105
スポーツ健康発展演習	2		2	SH2101
スポーツ健康科学演習	2		2	SH2102
研究演習	4		3	SH3101
卒業研究	4		4	SH4301